（ 戦時体制下の相馬中学校　１８）
１０　学徒動員：三年生（ 相中第４５・４６期生等 ）　・・・ペンをハンマーに
《 横浜・海軍航空技術廠支廠へ出動 》

（７）海軍関係学校も志願しながら

相中生は連日、工場での厳しい仕事についていたわけであるが、その間にも、次々に軍関係学校へ進学するよう勧誘を受けていた。

まず**太田昭二**(※1) の予科練志願の様子を書くことにしよう。

彼は 1944（昭 19）年の暮れ近く、海軍甲種飛行予科練習生に合格、横須賀の海軍電測学校入校の通知を貰った。そのため 1945（昭 20）年４月頃になって、湘南富岡駅より焼け野原の東京を歩き、一旦帰郷した。ところが、入校間近になり、急遽、高野山航空隊入隊との変更通知があり、小田原に集結し、臨時夜行列車で出発。海側の窓はすべて閉めるよう警備の下士官からの指示があった。おかげで薄暗い。これは秘密保持のため、すべての列車で守るようになっていた。米潜水艦を警戒してのことである。デッキには下士官が警備していた。

「海軍二等飛行兵を命ず」

高野山中学校々庭で入隊式。憧れの七つボタンをつけ、ここに最後の予科練生（甲飛十六期生）が生まれ、横志飛七七四七七番の兵籍番号を受けた。まもなく噂の海軍バットで尻に五発の罰直をうけ、婆婆っけがふっ飛んだ。風呂に入るときは、ヒリヒリとお湯がしみて苦労した。ここでは何でも五分前の精神で学習や訓練が行われた。演習は陸戦式で、高野の山野を駆け巡ったものだ。

終戦は、陸戦の演習中に知らされ、その日の帰隊は「裏道を行こう」と言った教官の言葉が妙に印象に残っている。帰省は８月 25・6 日だったと思う。

志賀宗雄(※2) の様子はこうだった。

彼は海軍兵学校予科に合格した。日持ちを考えて「焼きお握り」と、旅館に出す米を背負い、長崎に開校した海兵予科に向けて出発したのは昭和 20 年３月早朝のことである。原ノ町駅から、空襲の激しい東海道、山陽を避け日本海沿いに乗り継いだ。九州佐世保に近い小島まで三泊四日の独り旅。まだ十五才になったばかりの身で日本縦断旅行は何とも心細かったという。

次に**引田功**(※3) の場合を書いて見よう。

彼は、1945（昭 20）年６月防府海軍通信学校（予科練）入校のため動員先を後に一旦帰郷した。７月逗子開成中学校に集合し、山口県三田尻駅（現防府駅）に向け出発した。広島駅に着いたのは夜だった。列車が広島駅に停車したので、何気なく駅を眺めたら、駅舎は空襲でだいぶ壊されていた。しかし駅の用務には差支えないように見えた。

海軍通信学校に入って見ると、学校では甲種、乙種、飛行予科練習生、一般水兵が一緒に生活しており、後で海兵予科の生徒も同居してきた。塩田を埋め立てたところに建てた平屋建てのバラック兵舎が我々の住居にあてられた。食事は麦飯だったが量は十分であった。

終戦になり、しばらく経った８月 23 日になって帰宅の途につくことができた。列車はいずれも満員で、ようやく貨物の無蓋車に乗り込むことができた。広島駅に着くと、見渡す限りの焼け野原、建物はすっかりなくなり、焼けぼっ

くいがまばらに立っているだけだった。広島駅にはコンクリートのホームが残っていた。事務室代わりに旅客列車一両が使われていたことが、鮮明に記憶にのこっている。原爆の恐ろしさを目の当たりに見てきた訳であり、「烏有（うゆう）に帰す」　という言葉があるが、まさにその通りの惨状だったということである。

小山隆(※4)は、昭和20年、海軍経理学校受験のため仙台に行った。仙台大空襲の直後で、受験場はあとかたもなく、しかも何の連絡も指示もない。しかたなしに相馬に帰り、丁度その頃帰郷して居た斎藤弥一(※5)、三浦清一(※6)等と一緒に横浜に帰ろうと東京に向かった。

ところが、前日の東京大空襲（3月10日）で、上野より先は電車が通らない。交通手段が全くなくなっていた。そこで秋葉原まで何とか線路伝いに歩いた。途中の鉄道線路はまだくすぶっており、半焼けの服を纏（まと）いながら、虚ろにさ迷い歩いている多くの男女を見たとき、横浜の寮まで歩いて行くのはとても無理だと判断した。上野で、ボロをまとった母子連れに、持っていた食糧（おにぎり）を分け与え、切符も買わずに相馬に帰った。その頃、汽車の切符を手に入れることは至難の技であった。

帰った日から一週間程して、警察に呼び出され、

「おまえ等は、この国家の重大時に何をしとるか！　国民総動員法で罰するぞ……」

と厳しく絞られてしまった。

そこで、すぐさま証明書を貰って切符を買い求め、横浜に戻り工場に出たまではよかったが、工場長の〇〇大尉に報告した途端、工場の端から端までぶっとぶような往復ビンタを食わされた（これは強烈で、目から火花がでる感じだ)。いつまでも忘れる事のできない動員中の一こまである。

（※1）中第45回　昭和21年卒　新地出身

（※2）中第45回　昭和21年卒　原町出身

（※3）中第45回　昭和21年卒　茨城出身

（※4）（※5）（※6）中第46回　昭和22年卒　中村出身